

# あかりだより

No.22

発行：2012年8月

発行者：社会福祉法人 あかりの家

題字：石岡 美由紀

2012年1月1日  
児童デイサービス  
事業開始



# 児童デイサービスが事業開始

あかりの家では、今年1月1日より、児童デイサービス事業を開始しています。児童デイサービスあかりの家では、これまで障害者支援施設あかりの家が培ってきた自閉症者支援のノウハウと関係機関との連携を活かしたサービスを目指しています。個別的な対応を行い、丁寧な療育を心がけ、お子さんの将来に備えた支援をするようにしています。

ご家族と一緒にお子さんの将来を見つめます

療育ノウハウ

関係機関と連携

大人になったときに、社会の中で自分らしく生活できるよう  
発達の芽を育てていきます



療育支援をふたつに分けて実施しています

○人と関わる中で、感情や行動を自分で意識し、コントロールする力を育てる

○分かりづらさ、見えづらさ、捉えづらさなどを軽減するために認識する力を育てる

コントロールする力

認識する力

## あそび

### 一緒にあそぶ

あそびを通して約束事があることを学びます。またひとと楽しむ、ひととつきあう基礎を学びます。



## 学習

### 円柱刺し



大小数種類の円柱を型に差し込む課題に取り組むことで、大小の比較、指先の器用さ、自分で間違いを修正する力、操作性を高めます。

### 100並べ(初級)



1～100までのチップを1～100まで書かれた台紙に並べていく課題です。指の操作性、順列の理解、枠の理解、1対1対応、粘り強さ…のさまざまな力を高めます。

## 運動

### 登山

体のバランスを取り、努力して、ひとのペースにあわせることを学びます。

そして、なによりも達成感がたまらない!



## 静止

やみくもに動き回ると注意が定まりにくいです。学びのための基礎となるのが、体のコントロールです。じっと静止することで、自分をコントロールすることを学びます。

ここに掲載したのは、実施している療育支援の一部です

# あかりの家のファッション

その時々にあった服装をすることは、生活のリズムを作りだすとともに、これから行おうとすることを意識し、意欲を高めるのに大切な役割を担っています。

特に、自閉症のひとたちにとっては、服を用意し、ときに化粧をすることで、これから行うことを理解しやすくなります。これにより、行動がスムーズになったり、気持ちが盛り上がったりします。

あかりの家では、そのときにあった「服装」をすることを、大切な支援のひとつとして位置づけています。

## 作業 作業服を着て…



## 帰省前日

明日はこの服を着て帰ろう



## あかり喫茶 化粧やおしゃれをして楽しめます



## あかりの家から発信 さおり織り ファッション

さをり織りで、ストールやリボン、バッグなどのオリジナル商品を作成販売しています。

## あかりまつり

夏祭りはやっぱりゆかたです



# ワークホーム高砂で「働く」



ワークホーム高砂では、現在48人の利用者が働いています。利用者それぞれの「働く」がありますが、今回は、ふたりの「働く」を保護者の方からの声も交えながら紹介します。

## デジカメ買いたい!!



自分のお金で何かを買いたいと言ったのは初めてです。「お金貯めてデジカメ買うねん」と楽しみにしています。(母)

「デジカメ買うねん」という気持ちで、作業の原動力になっています。給料日の次の日に1,000円をアヒルの貯金箱に入れていきます。(職員)

## ごはんがおいしい!!



部屋で過ごしていて、食も細かったのが、通所しだしてからは、モリモリ食べるようになり、大きな変化に驚いています。(母)

確かに働くことにより、生活にリズムができ、体も健康になって顔つきも変わりました。(職員)

# ケアホーム希望山荘日笠の夕食準備



## 準備はみんなです!!

今日の献立は八宝菜!!

「Yさん～  
野菜炒めるの手伝って～」  
「いいですよ～！」

ごはんをよそうのは  
わしの仕事

ポチポチいれましょか～♪  
しゃもじはどこかな～♪  
鼻唄が聞こえてきます



# こちら地域支援室

## 「サービス等利用計画表」を一緒に考えましょう

サービス等利用計画表は、本人（保護者も含め）が抱いている「こんなくらしがしたい！」を実現するために、地域にある社会資源やサービスをどのように利用するか計画するものです。

相談員と一緒に考え、作成します。これを支援のベースとして取組んでいくとともに、見直しを行いながら本人にあったサービスが受けられるよう計画を変更していきます。また、地域にどのようなサービスが必要かも、この計画書から検討していきます。

あなたの抱く将来のくらしを教えてください

かんがえます

①将来のくらしを具体的に考えていきます

②将来のくらしのために、何が必要か考えます

③くらしを支えるサービスを考えます

④希望するくらしをするために、本人がなにをすればよいか考えます

りようします

⑤見直し時期を決め、現実にあったサービスを受けられる計画にしていきます

サービス等利用計画表									
利用者氏名(児童氏名)	障害程度区分	相談支援事業者名							
障害福祉サービス受給者証番号	利用者負担上限額	計画作成担当者							
地域相談支援受給者証番号	通所受給者証番号	計画作成日	モニタリング期間(開始年月)	利用者同意署名欄					
本人の生活に対する意向(希望する生活)	①具体的な将来のくらし								
その家族の生活に対する意向(希望する生活)									
総合的な援助の方針									
長期目標									
短期目標									
優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量(頻度・時間)		提供事業者 (担当者名・電話番号)	課題解決のための本人の役割	評価時期	その他重要事項
1							④本人が努力すること		
2									
3									
4									
5									
6									
モニタリング期間	に1回		(実施予定月)						

※サービス等利用計画表を作成したいと思われる方はお住まいの地域の市役所・役場にご相談ください。

## 祝 姫路親子体操教室が500回を迎えます!!

1995年7月、三原園長を指導者としてスタートした姫路親子体操教室が、10月に500回を迎えます。

子どもも頑張ったけど、お母ちゃんもよく頑張ったよ。と言える時間がもてるのは嬉しい

体操教室：子どもの身体への働きかけをとおして受容と主導のバランスをもった、親子のいい関係をめざします。



## 帰ってきました 川崎 圭子です

あかりの家の支援員として23年勤め、一旦退職後、大学で勉強し、相談員として戻ってきました。また、よろしくお願ひいたします。



障害児等療育支援事業は、親子体操教室の他にも、外来療育・訪問療育・施設支援等行っています。

(079)254-3292

亀山まで

# おじいちゃん おばあちゃん講座開催

## ひょうご発達障害者支援センター クローバー

今年の3月に初めて「おじいちゃんおばあちゃんのための講座」を開催しました。今回は、センターに来られているお子さんの祖父母を対象に、センターでの療育場面のビデオを観てもらいながら、関わり方をお伝えしました。

「小さい時から心配だった」「両親が一生懸命で、何か助けてやれないか」と話は尽きませんでした。

センターでは、以前から祖父母から相談の電話をお受けすることがありましたが、講座という場でお話しできたことは、私たちにとってもよい勉強になりました。

後日、参加された方が、お孫さんから「おばあちゃん大好き！」と花をもらったそうです。講座で勉強されてから一層関係が深まったそうです。

センターでは、家族の笑顔を増やせるように、今後もこのような講座をしていきたいと考えています。

相談支援員 橋本 美恵



パンフレットを作成しました。(お問い合わせはセンターまで)

### おじいちゃん おばあちゃんとして 何をしたらいいのでしょうか？

#### 知ってほしい

##### 発達障害のこと

発達障害は、生まれつき、先天性の障害です  
子育て、しつけのしかたや愛情不足が原因ではありません。  
誰のせいでもありません。  
発達のアンバランスさにより、子ども本人の努力不足などの誤解を受けることがあります。  
特にお母さんは自責の念を抱えています。

##### お孫さんのこと

人との関わり方が下手です  
話しかけたり、あやしんだりしても返事がなかったり、反応が薄かったり思っている反応が返ってこないことがあります。  
感情の表し方やコントロールが苦手です  
何でもないことを、いやがったり、怖がったりすることがあります。  
それまで大丈夫だったことでも、不安によりいやがったり、怖がったりすることがあります。  
パニックになって、泣き叫んだり、暴れたりすることもあります。  
体のコントロールがうまくいかないです  
体の動きがぎこちない、手先の細かい動きが苦手なことがあります。  
やる気があっても、うまくいかないことがあります。

##### 親のこと

子育て中の親は、心細く、ときに孤独です  
「これでいいのだろうか？」と悩んだり、子どもの育ちについて不安なときがあります。  
子育てに自信はありません。でも「自分がしないと」と思っています。  
子どもを何とかしたいと頑張っています。  
勉強して、自分も変わろうとしています  
育てにくい、育ちにくい子どもへの関わりを考え、悩みながらも前へ進んでいきたいと、保健師に聞いたり、親同士で相談しています。  
子どもを変えようとしています  
何もできない子ではないです。  
できることを増やしていきます。嫌なこと、怖いことを少なくしていきます。パニックも、起こさないようにしたり、短くすることができます。  
それには、親をはじめ周りの人の関わり方が大切なのです。

## 理解

#### 見守ってほしい

笑顔で、優しく見守っていてあげてほしいんです  
親は、時々孤独になってしまいます。  
親の後ろには、いつも私たちがいるよって、明るく、前向きに見守ってあげてほしいんです。

#### 励ましてほしい

お孫さんをほめてあげてほしいんです  
できないことを嘆かないでほしいんです。  
お孫さんが、頑張ってきたときには、  
できたことを、お母さんと一緒に喜んであげてほしいんです。  
頑張ったお孫さんを、ほめてあげてほしいんです。

可愛がってあげてほしいんです  
可愛そうな子でも、不憫な子でもありません。  
気にしすぎず、あきらめないでいてほしいんです。  
いろんな可能性を求めて、親と一緒に頑張っています。  
それらのことを踏まえて、ほかのお孫さんと同じようなお気持ちで関わってもらえたら嬉しいです。  
お孫さんを、おじいちゃん おばあちゃんの後ろに隠してしまわないで、後ろから支えてあげてほしいんです。

親を励まして、認めてあげてほしいんです  
「よくやってるね」の、短い言葉から元気をもらっている親がいます。  
親の思い、考えを聞いてあげてほしいんです。  
親が「今は、これでいいんだ」と安心できるようにしてもらえたら嬉しいです。

#### 助けてほしい

協力者として、助けてあげてほしいんです。  
親は、懸命に子どもを育てています。  
親にも、地域や学校の用事がある。  
ひと息つきたい。 そんなときがあります。  
ひとりだけでは、不安なときや、場所があります。  
そんなとき、お孫さんを預かってもらえる、一緒に出かけてもらえることを、親は感謝しています。

## 笑顔

## 会話

## 協力

## あかりの家 自閉症療育のキーワード集(9)

「第18回あかりの家事例研究会」研究誌より

あかりの家の<実践の中で得たエッセンスをことば>に始めて10年になる。以下、『第18回あかりの家事例研究会』(12.2)研究誌の「あかりの家自閉症療育のキーワード集12年版」からの抜粋である。

### 130 整体先生大好き

Tさんは、週一回来られる整体の先生が大好きだ。そのTさん、初めて行く場所はオドオドして入りづらい。あかりの家でも自分の部屋以外は入りづらい。そこで大好きな整体先生に協力を願い、別の部屋で整体を受けた。それをきっかけに、どの部屋でも入って行きやすくなった。

又、エコー検査が予定されていて、これも整体先生に乳液をつけてもらって予行演習した。そして病院でも成功した。

そして最近、レインボーデイ(小グループ日帰り旅行)でイルカに触る体験を計画した。初めての場所で、生き物に触るという一寸ハードルを上げた計画であったが、当日、イルカに楽しみながら触ることもできた。

出来ることが増えてくると、声かけも増えて、会話の機会も多くなつた。やりとりを楽しめるようになって、発音も良くなった。

整体先生ありがとうございました。

### 65 一つでも多くの準備

ロングショートの人Sさん。「あかりで健康的な生活を取り戻す」段階と「あかりから所属の通所施設に通う」段階を経て、「あかりから通所施設に通い、帰宅もする」段階に入った。当初描いた方向通りに、順調に進んでいるようであった。

その日は、あかりから母親の迎えで通所施設に通い、終了後は(あかりに帰ってくるのではなく)、帰宅する日であった。あかりの朝の引き継ぎでも、その辺りの説明がなされた。

しかし、通所終了時に、あかりが帰宅か、間違っていることもあるし混乱もするはずだ。都合の良い解釈をすることもある。それをどう伝えるか。このままでは、通所後あかりに帰ってくる日も、帰宅すると言い出すのではないか、そう解釈をしそうなSさんの印象があっただけに、フツと不安がよぎった。

中心的に担っているK支援員に「いつも通りに通所するんですか?」と聞いた。そして、数時間後、「カバンを変えるようにするわ。」と話が返って来た。僕の心配は消えた。

彼らの応援には様々なアイテムが手助けをしてくれる。今回は、「帰省する場合」と「帰省しない場合」のカバンに違いを付けて、あかりが帰宅かの手掛かりとした。

今回の僕の一寸した不安とK支援員の対応に、自閉症者施設職員としての「アイデンティティ」のようなものを感じた。常日頃、設定を成功させるためには、先手的な、数多くの小さな準備が必要であることを意識している僕にとって、今回のカバンに、その思いを改めて強くさせてもらった。

### 38 終わりをたくさん作る

K君は、パチンコ台分解班でプラスチックの分別作業をしているが、持続性がない。そこで5分タイマーを利用して、鳴れば始め、鳴れば休憩し、鳴れば始めることにしたところ、集中できるようになった。「見通し」とか「分かりやすい」ことに関係するのである。1時間1課題より30分2課題、更には、10分6課題の方が分かりやすい。終わりが分かって見通しがつきやすい。

量についても同様である。いつ終わるかもわからない量を山盛りで差し出されるより、それを30分で終われる量毎に小分けして出された方が、「終わりをたくさん作る」ことになる。

### 26 「ちゃんとご飯食べないと、病気になります!」

分場でEさんが、昼食のメニューについて質問に来る。それに答えている時、突然泣き顔になって地団駄を踏み始めた。「どうしたの」と聞くと、泣き顔で「ちゃんとご飯食べないと、病気になります。」と答えてきた。「うんそうだね。でも食べたくない時は、無理して食べなくてもいいんだよ。」と返してあげた。

しかしイライラは納まらない。その時、思いと違うことを言うことを直感して、両肩を抱きながら「イライラしている理由は、他にあるんでしょう。言ってごらん。」と聞いた。沈黙の後「ゆで卵がいい」と静かに答えた。メニューは半熟卵であった。「すぐ作ってあげるからイライラしないで待って下さい。」と伝えて、ゆで卵を作る用意をし始めるとスーと落ち着いてきた。

お母さんに聞くと、家族が生卵を食べる時には、Eさんだけにゆで卵にしてあげているとの事であった。

### 93 あかりの家でうまくやれると学校でもできた

学校ではみんなが食べ終わらないと食べ始めないB君。あかりのショートステイという別環境で、皆と一緒に食事をとった。特に何も設定はしなかった。すると学校で、今までのこだわりは何も無かったように、皆と一緒に食べるようになった。

### 155 100並べて色んな彼が見えてきた

思い通りにならないと奇声を上げるSさん。帰省や行事の確認が多く、発語は不明瞭で分かりづらい。

その確認行為にどう対応するか、日々の課題であったが、私にはもっと違った関係も築きたいという思いが強くなっていった。

そこで新たな関係づくりを目指して、「100並べ」の課題を始めた。勤務を終えてから毎日、1~100までのマグネットを、枠と数字が書かれた文字盤の上に並べることをした。

最初はマグネットを枠内に置くこともできなかつた。分からないと奇声を上げた。しかし、続けた。すると、2~3回で、枠内に並べるようになってきた。

2カ月ほど経つと、数字に気づき始めた。マグネットをとる際に迷うことが出始めたのだ。今は、30個程の数字は正しく選べる。まだまだ学ぶことが出来ることを知った。これまで学べていなかったことも、身をもって知った。

Sさんのイメージが変わった。真面目に一生懸命取り組める一面を知り、Sさんの言葉でわかる単語が増えた。コミュニケーションが取りやすくなり、嬉しそうに笑う場面が増えた。

課題を通して作った関係や気付きは、日常生活にも繋がった。確認行為にどう対応するかだけでなく、「新しいことを一緒にやりたい」と思うようになった。例えば、最初は雑巾の場所を全く知らなかつたが、掃除時に毎回教えて、1カ月ほどで取れるようになった。

### 25 「食べない」ではなく「食べられない」

養護学校の先生から紹介されて、短期入所にやってきたA君。聞き取りでは、「パン、お菓子、麺類しか食べられない。他の食べ物を口に入れられない。」であった。

最初の食事で、「食事に行くよ」と伝え、スムーズに移動できる。着席もできる。食べようという思いは、それまでの動きから想像できる。

ところが、スプーンが持てない。こちらでスプーンを持って口に運ぶが、口を開けて食べ物を迎え入れることができない。そこでスプーンに乗せる量を極少量にすると、口を開けられる。しかし、転がすように舌で動かしているだけで、噛まずに飲み込めない。そこで、口の動きと飲み込みのタイミングを「モグモグ」「ごっくん」と教えるようにする。

食事ができないのではない。食物を食べる際、動作、タイミングが分からないのかもかもしれない。口の中に入れる量が分からず、スプーンが持てない。口の中に食物が入ると噛むことができず、咀嚼に繋がらない。咀嚼が出来ないため、嚥下ができない。

食べるための道具の操作(量の捉え方を含め)、食べる行為(咀嚼、嚥下)を教えることで、食べられる実感が生まれた。そして、一人で食べられようになった。家庭に帰っても、食べられるようになり、母親は大喜びで苦手なものでも練習しようと前向きに取り組んでいる。

# あかりの家イロイロ情報局

## 短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ2,833日の利用がありました。

## 児童デイサービス事業

自閉症や発達に遅れのあるお子さんの将来を見すえて、大人になったときに自分らしく社会の中で生きていくことができるよう、個別療育や集団療育をとらして「発達の芽」を育てる事業です。

## 障害児等療育支援事業

在宅障害児(者)及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフがご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

- I: お宅にお伺いしてご相談をお受けします。 (在宅支援訪問療育等指導事業)
- II: あかりの家に来ていただいて、ご相談等をお受けします。 (在宅支援外来療育指導事業)
- III: 通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。 (施設支援一般指導事業)

## 療育相談

お気軽にお電話ください!!  
**TEL 079-254-3292**  
**FAX 079-254-3403**  
 亀山まで

## 親子体操教室

お母さんが、子どもの身体に働きかけながら、バランスある受容と主導の力をつけ、親と子のくよい関係>を作るための応援もしております。

## 自閉症専門図書・VTRの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約400冊保有し、希望する方に貸し出しています。

## 地域交流ホームの開放

あかりの家では、地域福祉の活性化のために、地域交流ホームを、障害のある方たちの活動や、ボランティアグループの会議などにご利用いただき、施設と地域との交流の場として開放しています。

## さをりの会 ボランティア募集中

さをりの反物を商品化する **さをりの会** に参加して下さる方を募集しています。多くの方々のアイデアを集めて皆さんに喜んでいただける、よりよい商品を作りあげていこうと考えています。興味のある方はぜひ一度お立ち寄りください。  
 日時: 月2回の土曜日 10:00~12:00 ※都合により変更する場合があります  
 場所: 障害者支援施設 あかりの家 さをり作業棟

## ナイスハートバザール

今年も高砂アスパさんの協力を得て開催いたします。さをり織り・さきおりともあかりの家のオリジナリティ溢れる商品を販売しております。ぜひとも足を運んでみてください。

12/8(土)・12/9(日)  
 高砂アスパにて



## 社会福祉法人 あかりの家の状況 (H23年度)

一般会計		(単位:千円)		授産会計			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
自立支援費収入	270,813	人件費支出	235,950	授産事業収入	13,860	授産事業支出	13,530
補助事業収入	26,521	事務費支出	17,233	自立支援費等収入	76,683	人件費支出	46,531
事業収入	330	事業費支出	32,231	補助金収入	1,901	事務費支出	4,213
私的契約利用収入	14	経理区分間繰入金支出	40,310	経常経費補助金収入	546	事業費支出	7,904
経常経費補助金収入	25,496	固定資産取得支出	9,469	寄付金収入	3,450	借入金利息	319
寄付金収入	9,355	借入金元金償還金支出	120	雑収入	348	会計単位間繰入金支出	7,291
雑収入	3,849	その他支出	3,178	借入金利息補助金収入	159	固定資産取得支出	11,099
受取利息配当金収入	141	当期繰越金	64,039	受取利息配当金収入	10	借入金元金償還金支出	7,136
会計単位間繰入金収入	7,290			施設整備等寄附金収入	500	その他支出	572
経理区分間繰入金収入	40,310			施設整備補助金収入	5,000	当期繰越金	3,862
施設整備等補助金収入	6,600						
積立預金取崩収入	6,073						
その他収入	5,738						
合計	402,530	合計	402,530	合計	102,457	合計	102,457

### (社会福祉法人 あかりの家 利用者状況) (平成24年4月1日)

あかりの家	〈施設入所 定員40名、現員39名(男31名、女8名)〉 〈生活介護 定員40名、現員42名(男34名、女8名)〉	1. 出身別利用状況	高砂市(33) 加古川市(21) 姫路市(14) 播磨町(7) 加東市(1) 神戸市(9) 尼崎市(2) 小野市(2) 県外(2)
ワークホーム	〈定員36名、現員44名(男33名、女11名)〉	2. 年齢	あかりの家 最年長57歳、最年少20歳、平均施設入所40.2歳 生活介護39.7歳
ケアホーム	〈定員5名、現員5名(男4名、女1名)〉		ワークホーム 最年長49歳、最年少19歳、平均30.0歳 ケアホーム 最年長76歳、最年少42歳、平均55.6歳

## 編集後記

今年スタートした「児童デイサービス」の記事も掲載し、ますます内容が盛りだくさんとなり、充実してきたと思います。いかがでしたでしょうか。初めて編集を担当させていただき、各施設や部署の担当者と記事のやり取りをしていくなか、それぞれの特徴、特色があることがわかり、また、これまでにない仕事の仕方でも勉強できました。今後に活かせる経験だと感じています。(K.D)

## 社会福祉法人 あかりの家

障害者支援施設 **あかりの家**  
 児童デイサービス **あかりの家**  
 相談支援事業所 **あかりの家**  
 知的障害者通所授産施設 **ワークホーム高砂**  
**ケアホーム希望山荘 日笠**  
**ひょうご発達障害者支援センタークローバー**

〒671-0122  
 兵庫県高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
 URL http://homepage2.nifty.com/akarinoie/ E-mail akarinoie@nifty.com  
 〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
 〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
 〒676-0081 高砂市伊保町中筋1331 TEL (079)449-0701 FAX (079)449-4111  
 E-mail workhome@nifty.com  
 〒676-0082 高砂市曾根町1704-4 TEL (079)447-3136 FAX (079)447-3136  
 〒671-0122 高砂市北浜町北脇519 TEL (079)254-3601 FAX (079)254-3403  
 URL http://homepage3.nifty.com/auc-clover/ E-mail auc.clover@nifty.com